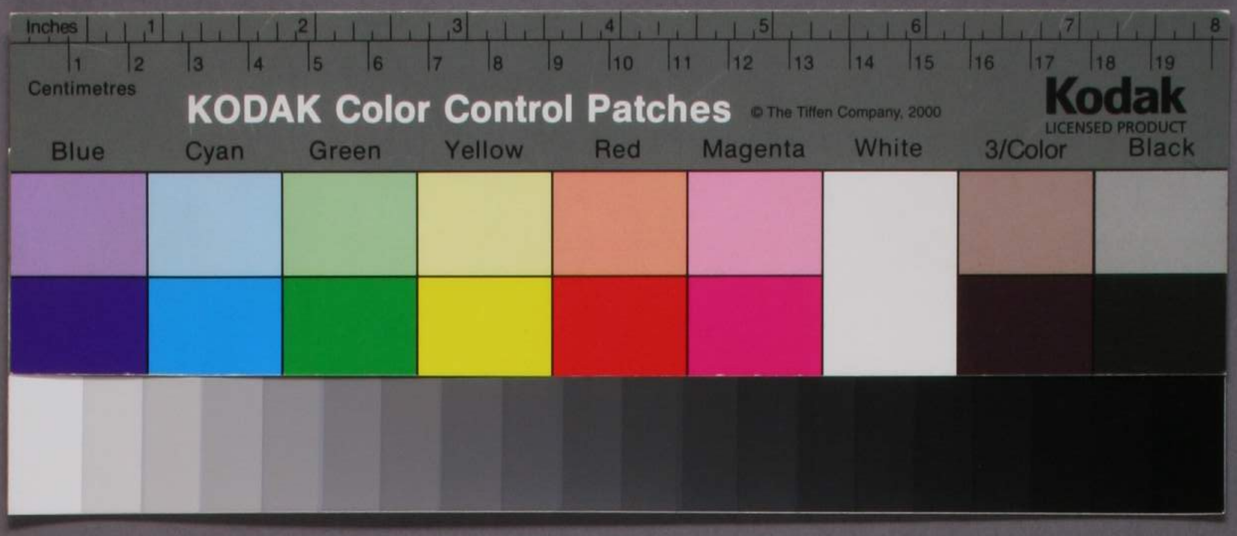
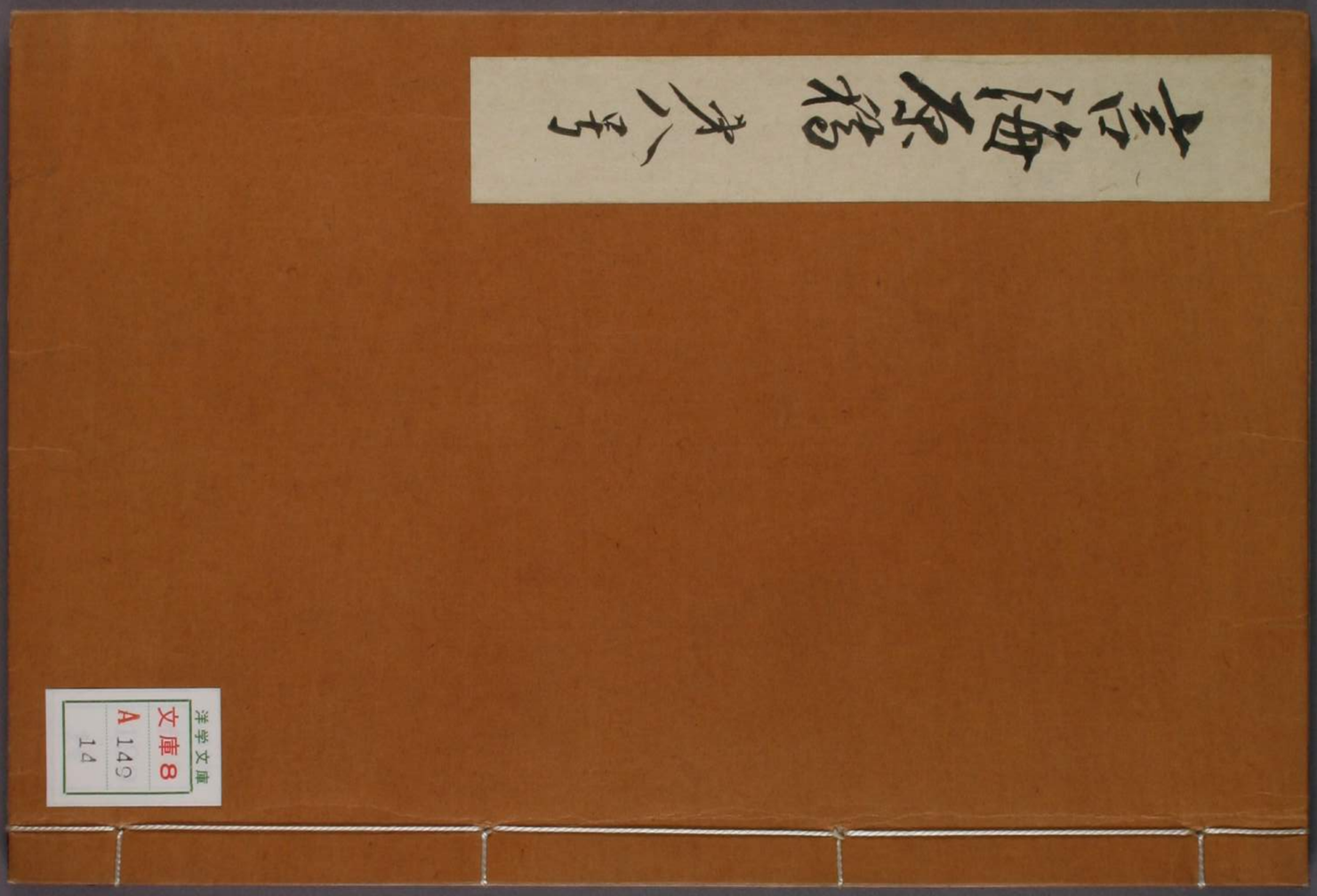

Inches
Centimetres
KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
Kodak
LICENSED PRODUCT
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black


洋学文庫
文庫8
A 149
14

言海原稿

元

大正九年十月廿日綴

大槻文庫

第八号

甲
118
199
(14)

ウラボン・ゑ（盂蘭盆会）（盂蘭盆ハ梵語ウラボンばる（Ullambana）ニテ苦ニ約メテうらぼんトニフ）倒懸（サカサニ）ト譯ス

釋迦ノ弟子目蓮、法眼ヲ以テ其亡母ノ地獄ノ餓鬼道ニ堕チテ頭下足上ノ苦ヲ受ケ居ルヲ見テ救ハムヤウヲ釋迦ニ請ヒ其教ニ因テ餓鬼ニ施サムハ七月十五日百味ノ飲食ヲ供ヘテ衆僧ニ供養シ母ノ倒ニ懸ルヲ解カム（解倒懸ト云フ）ト（盂蘭盆経）

陰暦七月十五日ニ修スル佛事ノ名、盂蘭盆供ト云ヒ略シテ盆又盆（ボン）（ト云ヒ又）盆祭、精霊祭（シヤウリヤウまつり）トモ云フ各條ヲ見ヨ

（盂蘭盆更ニ異ニ）

齊明紀三年七月辛丑（十五日）設盂蘭盆（ウラボン）会（エ）ヲ

「始今大膳職備盂蘭盆供養食」　書紀、十四、文治六年七月十五日「盂

十五日ニ行フ僧ノ自恣ノ日ヲ期ス（恣ヘ云）

東京帝国大学

蘭盆ニ被動作萬燈會」是當時、平民ノ名目ナリ、「盂蘭盆供
不該供養例也」
ウラボンシーク「盂蘭盆供」ウラボンノ略ニ見ル
ウラボン「後盆」シモツカタ（精進潔斎）ノ略ナリ

え 【可愛】（形容詞ノえし（好）ノ語根、通シテよし（「可」））
好キコト、愛ケテ、美ケテ。
古事記中（神武）ノ「最先立ル延ヨシ纏カム」（一行中ノ美人ナリ）
神代紀上六「可愛少男」「可愛此云エ愛」日本紀「住吉」
え（副）「能」（形容詞ノえし（好）ノ活用ノえくノ略ニシテ副詞ニ用ヰル）
ミテよう（能）清まぬ、よう（能）書かぬト云フ（是ナリ）
（三ノ能）。堪ヘテ下ニ必ズ打消又ハ反語ヲ呼ビ進セル（不行キそ、不取りそノ
如シ）万十二ノ四「筑紫潟ヤ長キ此夜ヲ」伊勢「思ヒカケル
女ノえ潟マジッキ」竹取「燕ノ子安貝ハ云ヒサテハえ取ラセタマハジ」
空穂、死ぬ下サ「今宵ノ事ハ誰ニえ語ラセタマハジ」枕草子ノ

伊勢第五段ノ「女ヲえ得ズナリニケル」ニトハ

「今青ハ え（行カジ）ト云ヒテ」（下略ニテ打消ノ意ニ用ユ）

（三）敢ヘテ 強ヒテ 神代他上ノ「不敢来」源 空蟬ノ「ツビシケレドモ

元ハタ押シカヘサデ」大和ノ「強ヒテ え言ヒニクテ」

え 感ノ（あゝ面白ク 感ル 感ル 感ル）

え、ト 音調 ノ「音調」の「音調」ノコリ。

え い 詠 由 詩 集 書ナド習慣ノ例 書 虚 徒 永 葉 七 集

（二）詠ズル 歌フ 詠ジル 歌。「尚詠」花鳥ノ詠

（三）舞 舞ノ中ニ朗詠ナド 如ク 詩ニ似タ漢言ヲ長ク述ブルノ。囀ト云

フ 舞ノミニハ何トモ聞キトケカネ ニ 「韓 ト云フナル」し

源七 紅葉賀ニ「源氏ノ中将ハ青海波ヲ舞ヒタマヒケル 舞ノ足踏オモモケ

世ニ見エヌサマナリ 詠ナド 見ヘルハ是ヤ 佛 陵頻伽ノ声ナラムト聞コエ 云

詠ハテ 袖ヲ ケナボシタヘルニ」 続教訓抄「舞 詠 楽 或人云 舞 牛ノ

曲ニ 詠ト云フアリ 思ヲノブル義ナリ 其心ヲ口ニノブル故ニ囀トモ云ヘリ」

え い 詞 中 月 日 ハツ ア 子孫

何 華ノ 詞ナリ

定義練習課

えい「鋭」(二)たゞトキ「英鋭又ハ豪雄」

(三)ツハモノ、強キ矢ヲ「畫鋭ヲ放」

えい「穎」カヒ、稲ノ穂ヲ切リ元キノ

主、秋ノ式「穀若ヲ束、穎若ヲ束」江家次第

四「本穎、刈本謂之稲、切穂謂之穎」

えい「翳」ハ。サシバ。

えい(形)吉し、吉き、ノ音便、好ム、好キ。今、関西ノ口語。関東ノいい。

えい、あつけ「水鉄」剣ノ名、あづけ(三)ヲ見ヨ

えいい「鋭意」一心ニコルル

えいえいと「喜々」イトヽシクテ、ヤキシヲヤシテ「商利ニ一トシテ日ヲ送ル」

えいえい(感)曳(エイ)(俳ヲ見ヨ)

えいがえ(名)「曳聲」曳(エイ)ヲ長ク「宇治拾遺」の「えい聲ヲ出シテ」

えいとう(感)「曳ト(曳ヤト)」「近」(熟ヒヨウ)「鬱ノ」近ム掛聲 狂言ニ、老武者「老武者ドモ切先ヲソロヘテカヽリケリ、えいとう」芝居ナド、口上言ノ、詞「えいとう」

人ノ手ヲ、「能ト走キル」

えい(感)「曳」(二)カヲ出ス時、(熟カ)時 厳島御幸記(治承)「歴ギタル朝ノ海ニ舟人ノえいさえメツラシクゾ聞ユル」

引ク。えいくと音モ高ク強クス 砂石集の「松共えいくトシテ大木ヲ谷ノ辺ニ引ケバ」

(三)「鬨ノ聲ニえいくトシテ」

サ法ス(三)味ヒカル聲。エイエイ。ヤイ。ヤイヤイ。盛衰記六、丹波少将「此程金ヲ多アリテ見参ニ入ズト云ヘ、曳トテ出デ合ズ」四十八「文賢清水状、文賢就神ヲ置ヒテ「イセニ安就王ドモハナキカ、曳マドヅキヒケル」

物語 平治物語 待賢門軍「熊手ヲ打ッ」

(ヒ)辺・ヒチ カヲヲ長クヒキ引ケバ

えいげふーせい 【炬口業稜】（商工業）（ほこぐ）業ノ利益 就キテノ稜、一定ノ家アリテ課セラル

えいーせい 【叡聖】 叡智アル聖。（とこり）天子ノ聖德ヲ稱賛シ奉ル語

「一文武皇帝陛下」

えいーだい 【永代】 永年錢ノ條ヲ

えいーだか 【永高】 永年錢ノ條ヲ

えいーやふ（ヨウ）ふ 【感重詞】 戦ノ條ヲ

えいーや（感）感重詞ノ略ヲ

えいーやつと（感） 軽ヤトノ音便、有力 狂言流文藏「トヨリキヘンヤツと云ウテ」（ハネカヘシ）

えいーやつと（副） 【実々と】（キチ〻） 音便（ヤウ）ニシテ、ヤウヤク、ヤット。「未ヤット仕遂ゲタ」（カヲ尽クシテ）

毛吹草（正保）立春旧年ナリケレバ「えいやつと 剪エヌ句ヤ二マタゲ」

えいーゴフ 【永劫】（劫）（ヤウゴフ。極ニ永キ年月。）

えいーさん 【英魂】 英傑ノ亡魂。（英雲。）

【英雄】 英傑ノ士。「未来」

えいーさう 【英雄】 陸軍ノ士卒、生徒ノ一定ノ日数アリテ一所ニ集會セラル。

えいーざう 【營造】（營作。）イトナミツクル。普請。作事。土木建築ヲ家屋物

えいーざうーぶつ 【營造物】 家屋物、道路、識道、公園ナド。

えいーさく 【營作】（えいざう）（營造）ニ同ジ

えいーさま 【永樣】 人ノ名字ノ下ニ書ク。樣ノ字ノ下ノ永ノ字ヲ省キ昂ケ

楷書ニ正シク書クヨリ最モ尊敬スル書法ナリ。次ナハ旁ノ美ノ字ノ草体ニ書

（行書草書ナリ）

多ひざまと云フ

えいーし 【詠史】 歴史ノ事實ヲ詩歌ヲ詠ム。別ニ詠物ト云フアリ

えいぶつ 詠物 詩ノ一体、物事ヲ題シテ其物事ノ名ヲ言ハズ形容ヲ詞ニ連ネテ其物事ヲ賞ル知ル、ヤウニ詠ムモノ、多ク五言律七言律ニテ作ル

エイジ 英字 イギリス國ノ文字

えいじーぎん 永字銀 徳川幕府ニテ宝永七年ニ鑄造セル小判金

永字ヲ極印スル又永字銀モアリ

えいじつ 永日 晝ノ間ノ永キ日、長日、春晝ノ日ニ云フ 春日。遲日

えいじ、ほうぱう 永字八法 書法ノ運筆ヲ永ノ字一字ノ内ノ諸畫ニテ示シ教ヘルモノ、支那漢ノ蔡邕ノ創定トモ傳(或晉代ノ某夫人ノ唱ヘシコトトモ云フ) 永ノ上點ヲ上點(又側)次ノ横畫ヲ平横(勒)直畫ヲ中直(努)其末ノ跳ヲ下勾(趯)左方ノ初畫ヲ左挑(策)其次ノ畫ヲ右掠(掠)右方ノ初畫ヲ左撇(啄)其次ノ畫ヲ右捺(磔)トモ云フ

10 根岸 表むらや製

えいしゃ 影写 スキウツシ、トキウツシ

えいしゃく 爵位 (一)爵位ヲ譽アルモノトシテ云フ。

(二)五位ノ異稱 如メテ五位ニ叙サルヲ五位ニ叙爵ト云ヒテ禁裏ヨリ五位以上ノ位田ヲ賜ハル 五位ヲ賣買スルコトナリ位田附届ヒ江記、天仁元年十月廿日「銀千三百両進ラ之後更有三百両之責」マ後問行事雜雜公依寛治例奪爵一人所催也依銀不足也」今昔廿七第十七「今昔東ノ方ヨリ禁爵ヲ買ムト思テ京ニ上リタル者アリケリ」

えいたん 詠歎 感歎同ジ、多ク詩歌言語ノ上ニ亦キテ云フ

えいちやがらし（江戸屋格子）（元禄年間ノ頃江戸所々江戸屋字母創意セシヨリ云フ（猪苗笑覧、二）格子戸ノ子ヲ三角ニ削リテ僅ニ透間ヲ置キテ並ヘ折ケタルモノ内ヨリハ透カシテ外ヲ見ルトモ外ヨリ内見エズ、密ヒソエイガシシ。

えいぐわ（英物）衆ニスグレタル人、英傑。

えいべつ（永別）永ク別レ遠ザカルコト。永訣

えいや（永夜）夜ノ間ノ永キコト、ナガヨ、冬ノ夜ナドニ云フ

えいやう（栄養）（楚辞）「生」ヲ書クハ誤リ

（二）良食アリ。孝養たらんこと。背書、趙至伝「至曰吾小未能栄養使

未完

燕居雑話（百家說林）四二

えいやう（栄養）（蘭語、Voeding（英 feeding）ノ譯語ナリ）動物ガ外物ノ養ヒヲ鼻口ヨリ取リ消化ノ作用ニ因リ己ガ体ヲ養ヒ生活ヲ維持スルコト（植物ニモ此理行ハル）

晉書、趙至伝「至曰吾小未能栄養使老又不免勤苦

杉田玄白書簡（和蘭醫事問答、下）「血ハ栄養一身候ガ

（醫事問答）張介賓曰脉有經絡、經在内絡在外外絡有營衛營在内衛在外蓋營猶泉源之混々而循行地中周流不息者也故曰營行脉中衛行者猶雨露之灌溉遠徹上下徧及萬物者也故曰衛行脉外」（史記、黄帝紀「遷徙往来無常處以師兵為營衛」）

えいちやがら」「江市屋 格子」「元禄年間ノ頃 江戸ノ町人 江市屋 字母 創意セシ ト云フ」（雑出笑覧、二）格子戸ノみヲ三角ニ削リテ僅ニ透間ヲ置キテ並ヘ折チ込ルモノ、内ヨリハ透カシテ外ヨリ見ヨレドモ外ヨリ内ハ見エズ、密ヒソエイガラシ。

えいこう「英物」衆ニスグレタル人。英傑。

えいべつ「永別」永ク別レ遠ザカル。永訣

えいや「永夜」夜ノ間ノ永キ、ナガヨ、冬ノ夜ナドニ云フ

えいや「栄養」「栄養」ノ字ヲ書クハ誤リ

「栄養アリ。栄養たつて。」

「栄養」

えいやう「栄養」（蘭語、Voeding（英 feeding）、譯語ナリ）動物ガ外物ノ養分ヲ鼻口ヨリ取リ消化ノ作用ニ因リ己ガ体ヲ養ヒ生活ヲ維持スルコト（植物ニモ此理有ル）

晋書、趙至伝「至曰吾小未能栄養使老又不免勤苦」

杉田玄白書翰（和蘭醫事問答、下）「血ハ栄養一身候ガ職ニテ云ヒ」長野長英ガ翻譯書ニ醫原枢要ニモ栄養トアリ

又 △△ トアリテ経絡ノ營ト云フコトアルナリ

えうゝ（ようよう）　遥授　遥作　遠々官ヲ授ケ、國司ニ任ゼラレテ赴任ス

身ハ京ニ居テ下官ヲヒテ國務ヲ司ラシムル、遥任

続後紀九、承和七年五月朔「新外官編身章華皆將潤以俸料合

『淳代耕云』諸使使附遥授人遂使公文惑於失錯貢物煩於

麁惡」居家文早、十五「遥授不繁公務之官也俗云虚職」

勝　京ニ住ス國司ノ

えうしよく　要職　肝要ナル職、肝要ナル長

えうさつ　夭札　夭折ニ同ジ、ワカジニ、左傳昭公四年、註「短折為夭

夭死為札」

えうせい　妖星　アヤシキ光ヲ放ツ星

知行永錢銭貨文ト唱フルモノ起リ分錢ト貫高ヨリ割リテ米穀ヲ永錢三代細セ三ツニヒシヤルベシ

永樂錢ニ等用スルヲ永代ト云ヒ異ナレテ永錢幾貫文ト云フ

えいらく　永樂錢　支那明ノ永樂年間ニ永樂通寶ノ字ヲ鑄

朝

明國ノ船相模ノ三崎ニ碇着シ永

樂錢数萬貫ヲ持タルヲハ民間ニ流布シ銭貨良好ナリ當時通用ノ他ノ

銭ハ一文ニ四

替

多價ヲ以テ民間ニ銭ヲ換ヘ

鑄ヲ禁ジ天文十九年小田原ノ北條氏領内ニ命ジテ

銭ヲ禁ジ銭ハ銭ニ上リ上方銭ハ京銭ト呼ビ慶長

十二年徳川幕府今ニテ永銭ヲ禁ジ

知行永樂錢

永樂銭

知行高ヲ貫ニテ永高ヲ貫ニ

永樂銭

リシニ十石ヲ一樽ヲストセシ由是ニ於テ遠国ニ千石百樽遠国ニ五百石八百樽
高下アリシコトオボエ
レド全国各地ニ於テ是ヲ米穀運搬運送ノ難易ニ因リテ

[illegible]

えいだか 永寿 水寿銭 [illegible]

えいがい 嬰孩 ミドリコ、チゴ、チノミコ 字彙 字彙 「嬰孩、エイガイ」

えいかんぶし 永閑節 江戸浄瑠璃節ノ派、延享ノ頃薄雪浄雲ノ弟子虎屋永閑ノ創メタル節ノ

えいき 盈虧 (一) 月盈月虧ノ旋ル位置ニ因リテ其光ノ盈ケ又虧クルヲ(二) 栄枯ノ盛衰ニ譬フ

えいきうし 永久歯 歯ノ俗ニ

えいぎ 英吉利 イギリス国ノ俗称 英吉利

[illegible]

えいこう 栄光 [illegible]

えいこう 栄枯 [illegible]

えいこう 栄耀 [illegible]

えいこう 栄耀 [illegible]

えいこう 栄耀

エイリ 英里 イギリス国ノ里程、まる（哩）ノ略ナリ

えいれい 英霊 英魂ニ同じ

えう 妖 カシゲナルマボロシ。「一ハ德ニ勝タズ」

[illegible] 仲左要 莖摺り莖

えうげん 妖言 オヨヅレゴト。妖言アリナド言ヒテ人ヲ惑ハシ

えうい 夭逸 摇馬 [illegible] 摇メキ或キ人ヘテ

えうえう 呦々鹿鳴 詩經小雅、呦々鹿鳴

えうじ 幼児 [illegible]

えうしゃ 幼者 年ユカヌモノ

えうじゃく 幼弱 トシワカクテヨワイ

えうせつ 夭折 夭死ニ同じ、ワカジニ

えうたい 腰帯 こしのおびノ條ノ

えうたい 拗體 作詩ニ於テ、絶句ナド起句第二字ガ平韻ノ字ナル時ハ第三ノ句ノ第二字ヲ仄韻ノ字ナルベキニ平韻ノ字ヲ用ヰル事、又拗字トモ云フ

えうたう 腰刀 コシガタナ。

えうちゅう 幼沖 「沖」ハ「冲」音ヒ 幼少、幼稚ニ同じ

えうにん 遥任 遥授ニ同じ

えうへん 窯変 陶器ノ窯ノ内ニテ焼ケル時、形ノユガミカハルコト。建盞ニ星ノアルヲ星建盞トモ又曜変ト云フ。星ヲ曜ト誤リテ又茅盞トモ云フ茅ハ細

揺じゃん 三弦 [illegible]

えんぐわん 願

えうぬい、ぼし 妖星 妖星ニ同じ 太平記、五、相模入道弄田楽「天王寺ノ

えうれ ぼしノ見ヤトゾ囃シケル」

えうぬき、み 副 「要之」 ツマルトコロ、畢竟、

えうえう 感 「あゝ、面ズ」 (二) 麿アル様、骨ノ形、「おまへガ書イタノカ、えうえう」

(三) 嫌ハシキニ歩ケル形「え、アブナイ」「ヰキナイ」「ニクラシイ」

えうえう 名 (一) 葉耀ノ約、紫葉、謡曲、邯鄲「夜書トナキ里ニミノ紫葉

ニモ えうえうニモ ケニ此上ヤアルベキ」 (三) 禁耀、長ビテ大者ルノ 嗣者

・鮎ノ皮ヲ降キテ鍋ニ敷ク えうえうノ 鍋ノ皮ヲ剥ク ヨウノ 婦人笑質、十

「紫耀ニ鍋ノ皮ヲムクトモ云ヘ」 今、おぼろ 餅歌ト云ヒ 上ノ皮ヲムキタルヨリ 云ヘ エキ

言ハヒ又美食 堅ノ餅ニ、サルモノ 枝葉ヒガタレ」

エエクル 名 ええかあ ニコニコ。

ええ 形 えい (好) ノ約 (関西)

エエス 副 いとまノ見ヨ

えーかがみ 「柄鏡」 圓鏡、下ニ柄ノ付キタルモノ 鷹筑波 (寛永)、「柄鏡ノ月

影ヲ汲ム水柄杓」

えかはぎ 「江川堤」 伊豆ノ大川ノ地名 元禄 (浜出雲廣記)

えぎ 縁起 約 空穂物語、下「沸騰経ヲ えぎ 法ヲ ヤ ナ ガ ラ」

えきーか 驚家 ヤケノ 俗ヤ

えきーさく 易簀 (ノの「簀、牀板」 礼記 檀弓 曾子病篤ク簀ニ易フ

即チ死セシ故 年月 ヲ云フ 「易」 死スルヲ、病死。

エキス〔抽象物〕（英語 Extract）〔エキス〕

エキスプレッション（英語 Expression）表情

えきーちゃう〔驛長〕（一）ウマヤノオサ、驛家ノ管理者 大鏡、上「驛長」

（舊時 世変改）（芭蕉ノ詩）（三）鉄道停車場ノ長

えきそう〔益鳥〕益虫ノ俗ノ

えきーう〔液雨〕ミゾレ

えきーでん〔驛傳〕宿継ノ傳馬、宮崎

えきーふ〔役夫〕人夫、人足

えきーば〔驛夫〕鉄道停車場ニ使用スル者

（青藜ノ長者ナドヲ見ヨ）

10 根岸 森むらや製

えきーり〔疫痢〕（別ニキ下痢、夏ノ小児ニ多シ、冷水不

適果ノ飲食ニ基ク 高熱ヲ発シ下痢ヲ起シ甚シキハ二日間

程ニシテ死スルアリ）

えきーえきーと〔赤々〕（副）（一）赤ノ七（二）美シキ状ニシテ「新形美々」

（花ノ色）（三）光ル状ニシテ「眼光爽々」

えきーはかせ〔易博士〕ヤウハカセ、陰陽寮ノ官、陰陽博士兼任シタリ

（諸国博士講ズ、ト云フ周易ト筮ノ事ヲ講ズ）

（東文ヲ見ヨ）

致明治六年六月、易博士 貨紀孝謙「陰陽生者周易」新撰

非常科ニ、十科ノ三ニ「権漢学博士手親ト云フ者アリテ周易

博士ニ其道ヲ教ヘ」オホエアリケレドモ

（バヤシ。付属ノ）

英機茶

エゲレス（名）（葡萄牙語）

慶長年中ニ阿蘭陀人英吉利ヲ稱セシ語（元和年中ニ商利ヲ求ムル目的ヲ以テ）

正音チヨウ（慶安）六「黒船ハ是ゲレを舟ノアヒチカミ」俳諧

カピル洋中」

エケレシヤ（葡萄牙語 Ecclesia）

又、エクレシヤ、天主教邪宗門ノ寺院。

えーぜいま（花胡麻）（同上）（俗語）

えさーぢ（依怙地）（依怙意地ノ略）

拗ケ意地張ル。我カタイヂ。イヂ。

えーさらーぬ（連体）（えさらぬ義。脇ラ避ケ去ル意。元（能）義物）

（俗ラ略ス）

（ガタキ、サリガタキ）（ヲ）

（連行セズバナラヌ）（ハ）夢浮橋「えさらぬ事ニ数ヘミ添ヒて過セド」浅心

集五「父ノ但馬ニテ下リケレバえさらぬ事ニテ遥ニ往ニケリ」

えーぞ（東夷）（八木ヤ又ヤ）（えぞ語原考）

蝦夷ニ同ジ、エゾ。常陸國風土記、新治郡「東夷之荒賊、阿波之

浪愛斯（エゾノ）人」（異考）

えーしーを（副）（不能）（俗ニ用ヒシ強ク指ス語。又感動詞）

能ニ同ジ、能ヤ

えぞ（形）「強」（おぞシ）「轟」

（一）強ジ、オソシ、強シ、仙臺ニテ、衣服ノ窮屈ニシテ着難キヲ云ヒ、えぞいト云フ

（三）オソロシ、可怒シ、（関西）

エスペラント（波蘭土語 Esperanto）世界各國ニ共通セシメム
ト新ニ作レル言語、語格極ヲ簡單ナリ波蘭土人「ザアンホオフ」
氏創意ナリ

エスキモオ（佛蘭西語 Esquimaux）
一種ノ人種ノ名亞細亞洲ノ極北東端ヨリ北亞米利加洲ノ北部ニグリインランドニ及リテ極北地方ニ住ス身長極メテ矮小

エレベエタア
自動階段

えせ（接尾）（似非）（偽）（へ）（え為は）（ゑ）（ゑ）（ゑ）（ゑ）（ゑ）
言ヒタリト思ヒル（平安朝文法史 五百十二）即チ似テ非ナル意ナリ。え（熊）ノ下
ハ必ズ打消ノ語及語ニ受ケ（ベキ）ナレバソレヲ畧ニテモ聞エルナリ 枕草子
の末ニ「今宵ハえ（行カジ）ト云ヒテ」（いさ知らぬ）ヲいさと（イサ）
ゾナドモ同趣ナリ」

（二）似テ非ナル。其物ト見エテ独立スル。

（三）偽ル。悪シキ。

（一）えせ安（ヤスク）（清。愛。）

又動詞ノ連用形ノ如ク用ヒラレタルアリ 四季物語 月「えせざん義」十

えせ（接尾）（似非）（偽）（へ）（え為）（ゑ）（ゑ）（ゑ）（ゑ）（ゑ）
言ヒタリト思ヒル（平安朝文法史 五百十二）即チ似テ非ナル意ナリ。え（熊）ノ下
ハ必ズ打消ノ語及語ニ受ケ（ベキ）ナレバソレヲ畧ニテモ聞エルナリ 枕草子
の末ニ「今宵ハえ（行カジ）ト云ヒテ」（いさ知らぬ）ヲいさと（イサ）
ゾナドモ同趣ナリ」

（二）似テ非ナル。其物ト見エテ独立スル。

（三）偽ル。悪シキ。

（一）えせ安（ヤスク）（清。愛。）

又動詞ノ連用形ノ如ク用ヒラレタルアリ 四季物語 月「えせざん義」十

訓抄九「恵せ乙異」通歩色葉集「恵、エセタリ」

えぞ（恵）「蝦夷（えみし、みびせ、えんぞ、えぞト轉ジタル語ナラム、えぞ語ハ宗徳天皇ノ御代、駿輔集ヨリ見エシメクレバ、前九年後三年ノ戦ノ頃ヨリノ稱ナラム）」

（二）古稱、エミシ、一種ノ人種ノ名、上世陸奥出羽ニ住ミテ頑強ナリキ、今ノ北海道ニ住ムあいぬ人種ハ此種族ノ後裔ナリ、身ニ毛多ク文身ナク衣食住風俗言語特ニ異ナリ（三）今ノ北海道ヲ古ヘ蝦夷ガ千島ト共ニ明治以前ハ蝦夷地トエビキ

駿輔集「アサマシヤ千島ノえぞノ作ルナル毒ノ矢コソヒマハモルナレ」

来世ト。「君ヤ津軽ノ海ノえぞ世ノ常奥ノ」

諏訪大明神絵詞（建武）上、吉野暦年中「東夷蜂起シテ奥州騒乱元アリキ蝦夷ガ千島トヨリハ我国東北ニ當テ大海ノ中央ニアリ」

えたりーかしがし（名）堅ムトコロノ白メ浮タリ、早クツケルベシ。

時ニ芦ヌル頃、

えたりーや、おう（感）（おう、唯、疑ヤ、ヤ、ヤ）

えたりーや、おう（感）（ハ、其ヤ、ヤ感ヤ）

悔元。

撫ムトコロヲ清ヤヤ、ヤ、ヤ、ヤ十騎、繰ヲ来ト駆ケ出レバ

平家ノ鶴「手コヌ、ヤ」（ハタト中ルえたりやおうト矢サケビヲヨリ、ヒテンゲ」

えつ「謁」謁見ニ同じ、又ミエ、オメドオリ「群臣ニ謁ヲ賜フ」

えつけん「謁見」貴人ニ対シテ、サムミエ、

えつぺい「閲兵」列立ノ兵隊ヲ校閲スルコト。

△駿宗昌位前紀『慶長都利』（代三十慶三作レルヤリ）

えーつり 桟（枝ヤリ義、木舞トモ云フモ細枝ノ桟ナリ）

（二）屋根木舞ノ古言ヤねしだちノ條ヲ見ヨ 屋竹作

△倭名抄十三 桟、瓦乃衣都利（瓦ハ屋ノ誤カ）宮鏡 「枌屋乃衣豆利」 円四十八 木偏ニ連ノ字ニ「衣豆利」

（三）今ハ土蔵ヲ作ル時、柱ノ外面ニ切懸ニシ懸ケル木舞ヲえつりトモ云フ

（三）壁下地ノ木舞ヲモえつりトモ云フ

えつりおう 蠟燭 ジガバチ

えーとい 為体（ライタイ）（ライタイ）（ライタイ）

えどーなやごめ　江戸庄詰　大名、臣下ノ江戸屋敷ニ詰テ居ヲ定メテ事務ヲ執ルヲ庄府（チャウフ）トモ云フ国元ナトノ参勤ニテ務ムルヲ江戸詰ト云フ（国詰ニ出ス）

えどーいち　江戸一　江戸ノ地ニテ第一等ナルモノ、天下一、三国一、日本一ナドト同ジ類キノ語、金銀貨ノ第一等ナルヲ江戸下ラツあきあばせ（帰合）ノ性ヲ具ス。

えどーさ　江戸産　〔伊勢屋ナドニ対スル語〕

俳諧ノ一派ノ名、元禄頃水戸ノ芭蕉ノ門人榎本其角、服部嵐雪ノ俳諧ヲ作リ其流ヲ汲ムモノヽ称、

えどーざくら　江戸桜　八一名伏桜（ミシサクラ）、ムシ武士トシ江戸ニハ武士多ク住ムト云ヒ意ニ取リテ名ヅケタルナリト云フ　関東ニ多シ

花ハ大輪ニテ遅咲（オソザキ）ナリ茎至テ長ク下ニ垂ル故ニ臥ニテ見ルト云フ心ニテ普ク伏見桜、伏桜ト云ヒキト云フ（海録ニ）

えどーっこ　江戸児　江戸ニ生レテ自ラ純生粋ナル大江戸人ナリト誇リテ称スル語、但シ多クハ職人、芸事ノ者、奥意ナド弱肌ナル中腹者ノ性ヲ詞ヨッセ用ヒ仕使ヒ仕使ヒ任ジ居ル者ヲ云フ。アヅマッコ。

えどーづま　江戸褄　一般ニ流行ノ模様（徳模様）ノ俗ヨリ

えどーなまり　江戸訛　江戸ノ人ニ限レル発音又ハ方言、ひもの（干物）ヲしもの、だいこん（大根）ヲでこ、ナドノ類

えどーに　江戸煮　さくらにノ俗ヨリ

えどーまえ　江戸前　〔前ハ前ノ俗ヨリ〕江戸ノ持前、江戸風、「ノ料理」

えどーまえ　江戸前　〔江戸ノ前海ノ義〕東京湾ノ産ナル鰻ヲ云フ。中川ノ下流ノ産ナリヲ云ヒド光物ノ品ハ海中長物ノモノトス夏ニ掛ケテ最モ美味ナリ

えど・おもて（江戸表）田舎地方より江戸へ出でし者ニ云フ語「へ出でし者」

「ヘニ於テ事起レリ」

えどーゑ「江戸絵」（二）京都大坂ニテ江戸製ニ擬セシ浮世絵紅絵ト

ドノ称（浮世絵参照）（三）江戸製ノ錦絵。

えどーのり「江戸海苔」浅草海苔ノ一名ナルカ

台徳公御愛況、慶長十年十月、江戸海苔枝柿昆布ヲ

献ズ」

えどーまめ「江戸豆」大坂ニテえげんまめノ称

えどーひな「江戸雛」江戸ニ製セル雛人形、古今雛ニ同ジカルベシ（嬉遊笑覧六下）「オモフニ江戸びなト称スルモノハ寛保已後製ルベシ」

えどーは・づき「江戸酸漿」たんばはづきニ同じ 空林風葉（天和）

「女奴、江戸鬼ヤ灯ヤ色ヨクミ」女奴ハ遊女勝山ナドヲ云フ（嬉遊笑覧六下）

えど・やま「江戸山」（名ハ山ヨリ切リ出セバ名レス）石屋ノ語、廃墓ノ碑碣

石ヲ買ヒ入レニキテ云フ 價安シ、

えどーばくふ「江戸幕府」武蔵国江戸ニアリシ幕府、慶長八年徳

川家康、征夷大将軍ニ任ジテヨリ十五代ノ歴テ慶應三年政権ヲ朝

廷ニ返上セシマデ二百六十六年ニテ廃セラル此間ヲ江戸時代又徳川

時代ト云フ

えどーじだい「江戸時代」江戸幕府ノ作リ

えどーがたな「胆刀」アキヒエ。胎児ノ胆ヲ切ル用ノ竹刀。

えな、つぼ 胞壷胞ヲ入レテ土中ニ埋ム用ノ壷（胞衣ノ條ヲ併セ見ヨ）

えーあらき（名）〔え苔ぞカ或ハ元在ノ苔ノ轉カ（ナキトヤアルトモアラズ 豈、なに、何ぞ）〕

能ハ無心ナ為リ得ず、在リ得ずノ意ニテアラムカ、元さらぬ

〔ト同趣ノ語ナリ〕

ゲニ都ノヤンゴトナキ所々ニ思ヒ入レ」四ノ。若草三十「イワノキ田鶴ノ聲聞オシテ暮間ニナヅム 無ソエナラズ」今昔ノ。比叡山ノ義清阿闍梨

「嗚呼縁ノ上手ナリ元、タ、一筆ト書キ名ニ心地元ぞ見エラヌカシ

キ事限リナシ」

えに 縁〔字音縁ノ轉、銭ヨセニ、蒲ヲウニトニアト同じ〕

ユカリ、エン。蜻蛉日記、下ノ。「カバカリモ訪ヒヤハシツル、ホトトギス花橘ノえにコソアリケレ」和歌ニ多ク江ニカケテ云フ後撰ノ。恋四「水鳥ノハカナキアトニ身ヲ経テモ通フバカリノえにコソアリケレ」新続古今、十五、恋五

「限ミテモナホ軽ムカナミヌクル深キえニアルシルシレ恩ハバ」又多ク指レシガ連絡ニテ用ヒラル。名詞ノ如クモ用ヒラル。

ミテ元ノ恩ノ助ケナシヲ待ヒテ用ヒラル。新続古今、二十、神祇「世ヲカケテ深クノ軽ム住吉ノえにしアリケル神ニ事ヘテ」六帖、五「徒人ノ渡

更科日記「サキニ上總ヤミテ下ラレシ えにしアバ 濡レぬえにしアバ又

上總ニ行ク」 道坂ノ関ノ証ニナム」

えるゝ、つぼ「胞」「壺」胞ヲ入ニテ土中ニ埋ム用ノ壺（胞衣保ヲ併セ見ヨ）

[illegible]（句）「[illegible]」[illegible]

意ナシ」[illegible]ハ、ぬと活用スル句、言フニ言ハレズ、[illegible]深ナニヌ。源ノ明名ナ「御シツラヒナドえるゝもシラ住マヒケルサマナド、ゲニ都ノヤンゴトナキ所々ニ異ナラズ」四ノ若菜三「イワケナキ田鶴ノ聲聞オシミリ蓬間ニナヅム無ソエナラズ」今昔ノ比叡山ノ義清阿闍梨「嗚呼練ノ上手ナリ云々、[illegible]」書限リナシ

えに「縁」「字ノ音縁ノ轉、錢ヨリ錢ヨリ」せに、藻ナラニトニツト同じ」

ユカリ、エン。蜻蛉日記、下ノ「カバカリモ訪ヒヤハシツル、ホトトギス花橘ノえにコソアリケレ」和歌：多ク江ニカケテ五ツ後撰ノ恋四「水鳥ノハカナキアトニ身ヲ経テ通フバカリノえにコソアリケレ」新続古今十五、恋五「恨ミテモナホ頼ムカナミヲツクシ深キえにアルシルシレ思ヘバ」又多クハ指シテモノ意ノ助辭ナシ「侍ヒテ用ヒシ」名詞ノ如クモ用ヒシ。新続古今二十、神祇「世タカケテ深クゾ頼ム住吉ノえにしアケル神ニ事ヘテ」六帖五「徒人ノ渡更科日記「サキニ上總ヤミテ下ラレシえにしアレバ」レド濃ヤえにしアレバ又上總ニ行ク」

（道坂ノ関ノ跡ニナム）

エネルギイ 精力 〔英語 Energy〕

事ヲ為シ得ベキ力、元氣

エネルシア 精力 〔英語〕 葛ノ粉ニテ作リシモノ

えびら 〔蒲萄〕 蒲萄ノ蔓ニテ作リシモノ

養蚕ノ具、古製ハ知ラズ後世ナルハ

竹篋 かひさ、かごト云フ其條ヲ見ヨ 今モ武蔵國八王子辺ニテえびらト云フ

又蚕具竹篋ノ名ニアリ

桐樸

俵馬乗、走井 蚕具刈リ納メ

俵名抄、十四 「蚕具、衣以良、美食器、旋蚕、於其上、今作蚕者也」

新撰字鏡、六 「五姓、ヨガ蚕屋、えびら、数ヲ多キニ、マタ、ヒメル岡、蚕具」

散木集、春 「伊勢ノ国ニ侍ハ酒ニ、蚕ノ多クシテ、蚕ノ飼ヒテ、えびらト云フ」

ナルモノニテ作ル、

京都ノ人ヨリハ東国ノ武士ヲ荒々シク思ヒ、えびらトモ云フ、蚕具ノ名ニ、偉ヲ見ル

蚕具ノ名ニ、

えびら 蚕具 〔えびら、ひじき、ひびき、ひぢき（廣屋草）さぢき、さじき（樣考）〕 二種ミル

（一）蝦夷 東国ノ荒々シキ人種ヲ言フ 「蝦夷、衣以良」 天治字鏡 十二、蝦

夷、衣以良」 舒明紀、「蝦夷数ヲ朝」

（三）蝦夷 東国人ノ称トモ言フ 物ノ情ヲモ知ラヌ

荒々シキ人種ヲ言フ 「蝦夷ノ京振ノ異ノ者」

堤中納言物語、逢坂越 「心深ケニ聞エツケタル事ドモハ、異

人ヒガモ思ヒ知リ人ニ」 狭衣 「荒キ夷ヒガモ泣キヌ（キナリ）」

（三）又 野蛮ノ賤シク 鄙ビタル田舎人ヲ云フ

伊勢ノ歌 「女、隠リナクメデタシト思ヘドモ、サルサガナキ夷ヒガモ心ヲ見テハイカヾ

源ノ東屋ノ 「夷ヒガモ人ヨリ見ナラヒテ」

(四)開夷・外國。東夷、南蛮、北狄、西戎、雲異記。○「戎、エビス」

別ケ名ヒガ國ヲ見テ四辺ノ

名義抄「蛮、カラキ、エビス」字丸抄「夷、於蛮、エビス」

(五)えびすさぶらうノ男其俤ヲ

(夷)

(六)賦役令集解「凡辺遠国有夷人狩数」註「謂毛人肥人阿麻弥人蝦夷」(阿麻弥、琉球大島ヨリ)

令義解十三

えびすぐさ「夷草」(夷地所生ノ草)(二)芍薬ノ古名 字鏡九「タエビスグサ、又ミグスリ」(倭名抄同ジ)

薬、衣比須草「本草和名上六「芍薬、衣比須久須利、奴美久須利」(倭名抄同ジ)

(三)決明ノ古名、本名和名上二「決明、衣比須久佐」(倭名抄同ジ)

えびすね「夷根」(夷地産ノモノヲ)又、アヤメタム、ゆれもかう(地榆)ノ

古名、本草和名上三十「地榆、衣比須祢、阿地久多久」(倭名抄同ジ)

えびすぐさり「夷薬」又ミグスリ、芍薬ノ古名、本草和名上六「芍

薬、衣比須久須利、奴美久須利」(倭名抄同ジ)

えびすぐさり「夷草」えびすぐさノ(一)ヲ見ヨ。

えびすぎれ 夷比須切(長短不具ナレバ三ツえびすぐさぶらうノ俤ヲ見ヨ)

呉服店ニテ夷ハ寄せノ布帛。

えびせんせに「恵比須銭」「綸錢」の一種、面に恵比須の姿を鑄出したるもの、

奉使小録（青木昆陽）「今ハ夷錢ハ面用ノモノニアラルヤウナレド武州ハ

秩父郡ヨリ出セル古金ニテ見レバ面行ノ錢ト見エタリ其文左ノ如シ云ヘリ「古

代物如前々ゑびす錢、村郷中大小人ハ借候云ヘ、申戌八月十七日、朱印

アリ北條氏ノ印ナルベシ」

えびすだい「恵比須鯛」大黒鯛ノ條ヲ

えびすめ「昆布」（夷布ノ義、め（海藻）條ヲ見ヨ　蝦夷ノ海ノ産ナリ）

昆布　古名、ヒロメ、綸紀ノ霊亀元年十月「蝦夷須賀君古麻比

留等、貢献昆布」本草和名、上三十、昆布、衣比

須女（俗名地ロビ）

えぶ「葉」（杏葉　馬ニテ其葉ノ縁ノ鋸歯ノ図ヲ刻リ入レタル象ニ因リ

テ云フ説ナルベシ）曲線ト曲線ト相金ニテ点ノ刻リ込ミタル如キ象ヲ

云フ説、隅ノ角ニ葉入ルモ是ナリ

徒然草、三十三段「今ノ内裏造リ出セリ云ヘ、玄輝門院（伏見

院母后）御覧ニ関院殿ノ樣形ノ穴（小窓）ノ図ヲ縁モナク

テ、アリシト仰セラレケル云ヘ、是ハ元ノ入リテ縁ヲエラケバアヤマリニ

テ直サレニケリ」

えぶ　厭離ノ約、其條ヲ

エブ　閻浮提ノ異、其條ヲ

えぶくり「葉入」ノ文ノ條ヲ

えぶすり　「葉鐵」ブリツキ

えぶり　「朴板」柾目ノ板

えぶり　「葉板」ボテ、

えへへ（盛）穫カニ笑フ形

えへん（咳）咳バラヒヒル形、人ノ注意セシムルナリ。

えぶりぶた　「朴板」竹製也又ハ柴ノ庇ノ附木ノ上ノ出桁ノ端ヲ横ニ

横板、縁ヨリ洲濱形ニ刳リテ飾リナドス。

えぶり（動）火樽ヲ煽ル訳。

えぶす　煙ス訳。

エプロン（英語）白布ノ上張、女洋服ノ上ニ

えぶのーえんじやう　「厭舞乱聲」厭舞ノ條ヲ

えべす　惠比須ノ訳

えぼうーレ　「烏帽子」「烏」ノ古音、お、え（談文「烏、哀都切」）ナレド後ニ

を、ゑ（玉篇「烏、於乎切」）トナリテ我ガ邦ニテハ用ヒラレド平安朝

ノ初ニ至リテ特ニ烏帽子ニ限リテ之ヲ音便ニえトシ濁音セ

リ　冠物名、紙製えんぼうし、紙ノテえぼしトモ其條ヲ見

ヨ、天治字鏡十二「帽、保宇志」、塩増絮、江戸保宇志」（増「帽

誤寫）倭名抄十二「烏帽子、俗訳烏為喬」　名義抄、中部

烏帽、エボシ」字鏡抄「烏帽子、エボウシ」　明月記、元久二年九月

十九日「衣帽子直衣」

（万十七「月斜烏」ロ十三「心遠喬」）

旅、古文烏省

えぼし 烏帽子（えぼうし、約、其條ノ語原ヲ見ヨ）

又えぼうし、えんぼうし、冠ノ屬、上代、黑キ紗又ハ綿ニテ作レル帽子ナリ

烏紗帽

天武紀十年六月「男夫始結髮、仍著漆紗冠」同十三年四月「集會之日云、男子有志者、冠而著括緒褌」釋紀「私記云、是冠、今之烏帽子也」烏羽天皇ノ頃ヨリ紙ニテ作リ黑漆ニテ塗リ固ムルモノトナリ

貴者ノ冠袍ニテ又時ニ用ヰル時者ハ常用トス貴賤ニ因リテ形ト塗ト、差別アリ立烏帽子ハ高貴用ヰ種々ニ折リ屈スルホド身賤ト成ル

烏折ー、引立ー、侍ー、納豆ー等尚種々アリ

平礼ー

えび 蝦（腰曲ルガ故ニ老人ニ比シテ海老トモ書キソシニ就キテ）

（草蘇ヲ野老ト記スト同趣）

うみのおきなと訓ミテ異名トス

海産ノ動物、身細長クシテ全身殼ニテオホヒ、背ニ數斷節アリ自由ニ屈伸シテ二髭ハ長ク五對ノ足アリ能ク躍リ生ナガ薄黑クシテ煮レバ紅ナリ海ニ住ムノ海蝦ト云ヒ（專ラ）イヒ（塩）ヒ（干）ヒ（乾）ヒ（干）ヒ（乾）ヒ（干）ヒ（乾

えひ（一かう）（之）「裏衣香」（裏衣字ノ音えふノ拗カ）倭名抄ニ「裏、於葉反」トアリ
（廣韻、裏香」類聚名義抄「香、袋衣也」）或ハ衣被香ナルカ花鳥餘
情ニハ葉皮ノ音ヨリトス　器ニテモハトニミミ云フ
煉香（ねりかう）名、裏香（ミナビヒロ）ニ用ヰテ衣服薫ズルモノナレバ、梅檀ノ葉皮ヲ煮テ於島ヒラ
製ストニテ或ハ三種（ミクサ）トモ云ヒテ麻香沈香白檀ヲ等分ニシテ甘葛煎（マツニセン）
ニテ合ハセ槽（ふね）柳子ノ皮ヲコゲ入レ名ヲ香是レナリトモ云フ
倭名抄十二「裏衣香、裏於葉反、俗云衣比」
空穂、花鳥上、「えひ、丁子、金（こがね）ニ入レテ搗カセタリ」源ノ末摘花（十六）
えひノ香イトヤツカシウ薫リ出デ」花島紅情「香字抄云、採梅檀
樹葉皮、表紙御為香故云葉皮」新撰集記「沈香、麝香、衣比、
源ノ初音ノ「火桶ニ侍従（煙香）ヲクユラカシ物ヤコトニシタルニ、えひかうノ香ノ紛レ」
丁ル云ニ」

えびせ、かき　夷毋事ハ法華（東毋事ハ人形ヲ捆ニシ紅ニテ彩ル）
テ脇ニ垂レ人形ノ舞ハシムル用ヒ未ダ詳ラカニセザルモ「恵比須舞ニ同」
摂津一世ニ夷神社ノ辺ニ出ル傀儡ナリ。
東海道名所記（東海）京「珍瑞瑞ノ其所京ノ次ニ兵庫トカヤ云フモノ
ニハ、西ノ宮ニえびせ、かきヲカラクリ四條河原ニテ鑄物ノ故清シ詞ヲ人形ヲ
ヤリ云ヒ」（摂津）
えびおよろう　海老女郎　女児ノ玩具、海老ノ目ヲ（伊勢多賀海老自ヲ取リ）紙縒ノ頭髪
名ヲ人、俳諧三物（貞享）「ウラゴロヤ海老上臈ノ二タガサネ」（買一宣集、
上総、下後）

恵比須

えびすおろし　海老錠　錠ノ鎖腰ノ曲リ名　初代ノ形ニ似ルモノ

えびすさやまき　海老鞘巻　之まきノ俗ニ長サ

えびめ　姫　姫ノ俗ニ長サ

えびさやまき　海老鞘巻　短刀ノ鞘巻ノ一種　間遠ノ刻鞘ニテ反リ

方ヲ太クシテ曲ケテ作リ人手及ビ朱漆ニテ塗リタルモノ　形ハ処ニテ名　龍蝦ノ如シ

錺ヲ銀人物ニ色ニ

孔ヲアケテ革紐ヲ結ブ　（大招キ）　引目下緒

酒

酒並記（天文）「ひきめ下緒ノ事　コレハ必ズ　ひさご巻ニ下ゲタル也」（後松

日記十八）

えびすこ　夷講　恵比須講　エビスマツリ　商家ノ恵比須神ノ祭

商業ノ神トシテ祭ルヨリ十月二十日ニ行フ　大ニ繁昌ニシテ商業ノ繁昌ヲ

祈リ　假ニ商業取引ノ定ヲ比ニ擬シテ主客盛ニチヨウチキヲ祝ス　江戸市街

ノ秋　京都ノ商人　貨物ヲ持チ　十月廿日落成ヲ江戸ニ来リ　夷買ヲ終

（ヲ）正月ニ帰京ス　故ニ京都ニ行ハ正月十日ニ恵比須祭ヲ行ヒ（屠龍工

隨筆）誓文掛ノ後　十月二十日ニ行フ

えびすこまはし　恵比須廻　（初ハ専ラ恵比須ノ神ノ人形ヲ舞ハシ名ヨリ

ノ名ヲ（ヒ）摂津ノ武庫郡　西宮ニ恵比須神社ノ辺ヨリ出ル人形舞

ノ科　エビスカキ　ブクツマハシ

えほう「吉方恵方」（兄方義ニテ歳徳神ノ方ヲ甲丙戊庚壬ト定マリテアビハナリ、俗ニハ恵ミン要ムル方ヲ恵方ナドト記スナリトカ（閑田新筆、一））

明ノ方。暦ニ方違其年ノ歳徳神ノ司ル方（其條ヲ見ヨ）此方角ハ百事ニ福アリトシテ一月ノ初ニ己ガ住所ヨリ吉方ニ当ル神社ニ参詣シテ福ヲ祈ル。コレヲ恵方まるるドカフ 又家ニ恵方棚トカフ神棚ヲ設ケテ歳徳神ヲ祭ル。

甲己ノ歳（甲方）寅卯ノ間

乙庚ノ歳（庚方）申酉ノ間

丙辛ノ歳（丙方）巳午ノ間

丁壬ノ歳（壬方）亥子ノ間

戊癸ノ歳（戊方）丑寅ノ間

中宮御産部類記「当日陰陽師ノ神祠吉方吉時ニ」

日暦御記 寛平御記 永仁御記「天暦御記ニ吉方」

江家次第十六、大黄金御禊「出御ノ吉方」

蜻蛉日記、中上「イト吉キニトナリ、テンゲノ忌ほうニモマサラム」

えほうまるる「恵方参」えほう（吉方）ノ條ヲ

えはうだる「恵方棚」（えはう及ビ院参夕霧阿波鳴渡上巻）

えほうにん「要人」（用人ノ條ヲ見ヨ）

「吉方棚神棚」

えびすぐさ「夷草」（夷ヲ浦ヤセンモナ）（一）

えびすがほ「恵比須顔」（恵比須ノ神ノ笑顔ナル。寄セテ云フ恵比須ト云フモ笑ミヲ寄スルナリ。笑顔、ワラヒガホ。「借リル時ノ恵比須顔、返ス」）

（時ノ間慈顔）

えびーきくび「蝦掬」ハ蝦ヲ掬ヒ捕ル具、手網ノ類ナリ、

えびもうた「夷歌」えびをノ俤ヲ見る　（又武士ヲ夷ト云ルニ寄セタル歌ナリ）

えびをーさうろ「夷心」えびをノ俤ヲ　（詩經武城「一戎衣天下大定」）

えびをーさうろ「戎衣」「戎衣」ノ字ノ文字ニ、設文「戎、兵也」ニ

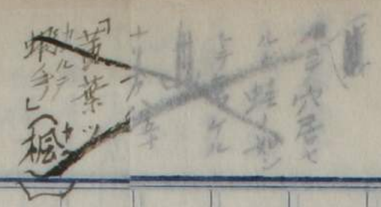
戦争ノ衣服、鎧ノ着名ナリ、元ヲ先ガタト云テ事ニ公卿ノ人ニ云フ、

「朝衣ノ人ハサクラノえびをざ」（二條関白宣基）

ウルトヤ、姿、メヅラシキ事ナリ」　権中大納言今出川実相中将、ナドハナホえ

ひを姿ヲ行幸ニ供奉セス」（南北朝公卿ナリ）

えびをーまがた「我姿」●えびをざうろ俤ヲ見る



△終止形ノ名詞トナハ言葉ノ上ニ（元茶）ナリ　実流波斯（実ニキ妹）ト佐麻し佐麻モ心ナドアリ

元丹じ夷「能不見義、嫌ハシクヲ見ハヤ欲セヌ」　△みじ：蝦夷

学ヲ當テ、書ケル、東夷ノ事ナリ　東国ノ蝦ヲハ蛙ニ義ニテ東夷モ

●穴居セル常陸國ヲ記ス茨城郡ノ條ニ見エタリ穴居セルカ蛙ニ似タルガ當

テ名ケ方八ヲ「黄葉ツ蝦手」（椄）トアリ」

八十皇師ヲ愛逆詩ト云ヘリ（神武紀ニ十五年十月）

（其族、猖獗ノ名ニ穴居シタリ）

（三）轉ジテ、古ヘ関東奥羽ノ蝦夷ノ名ニ移リ

北海

蝦夷、遐夷、遐狄ナド書ク　轉ジテ

えびをトモ又えぞトモ云フ（各條ヲ見ヨ）

（敏達紀ニモ人ハモ深キ故ナリ）

景行紀ニハ「東夷之中ニ、縵国ノ蝦夷」　齊明紀ニハ「蝦夷幾

種ニ類有三種遠者名都加留次者蜃蛤夷、近者名
鮑蛤夷」

えびすさぶらう[夷三郎]八神代紀上九ニ諸冊二尊日神月神ヲ生ミ[タマヒ]
次ニ蛭児生ム[ルマデ]三歳至[ルマデ]脚立ズ船ニ載セテ棄ツトア

△肥エテ笑顔ニ笑ヲ含ム因テ恵比須ト書ク(狩衣指貫ヲ着テ烏帽子ヲ冠リ右手ニ釣竿ヲ持チ左手ニ鯛抱ヘタル姿ヨリ)

[illegible]

稱シ又七福神ノ一トシ最モ富ニ家ニ[illegible]ル
盛衰記ニ[illegible]俊寛ノ俊寛、鬼界ガ島「島ニ流ル岳ト云フ山ア
リテ其山ニ夷三郎殿ト申ス神ヲ齋ヒマツリテ岩屋ト名ツク」

△拾玉集
○「西ノ海
風心さま
西と見ガ
マヒノミヤえ
びをさぶら
ふ」(候)

太平記廿五○「蛭子ト申スハ今ノ西宮ノ大明神ニマシマス生レタマヒシ後
三年マデ御足立タズシテかたはニマシマセシカバ磐樹船ニ載セテ海ニ放
チ奉リシ云ニ」△(二)蛭子神ノ不具ナル因ニ物ノクヒチガヒシ故、常ニ
異ナ[illegible]えびすガ元ヒモ紙ニ膠ナドヲ塗リ
元びすいかゝ[夷]紙(えびすさぶらう(二)候)
紙ヲ数枚重ネ揃ヘテ数ノ時一枚折ヒロメタルヲ知ラズシテ裁チモラレ
後ニ其角ニ出デテ紙ト異ナル人 戸力紙

種々類有三種遠者名都加留次者蜃蛭夷、近者名
魚蛭夷」

えびすさぶらう 夷三郎八神代紀上九ニ諸冊二尊日神月神ヲ生ミ
蛭児住ム 三歳・至ル 脚立タズ船ニ載セテ流シ棄ツトア
リ 不具ナニヲ夷ト云ヒ竹ヲ三ツ又ハ三ツトヲ云ヘルカ ヒ訛リテえべすト云フ
摂津国西宮ノ蛭子ノ神ノ祭ニ其像ヲ用ヒ屋根
其像ヲ作リ指ヲ曲ケ釣リ上ゲタル状ヲ為シ天皇天ト並ベ
稱シ又七福神ノ一トシ最モ尚家ニ崇ル
盛衰記ニ俊寛ノ俊寛、鬼界ガ島ニ流ル
リテ其山、夷三郎岳ト申ス神ヲ齋ヒマツリテ岩屋ト名ヅク

太平記廿五ニ「蛭子ト申スハ今ノ西宮ノ大明神ニマシマス生レタマヒシ後
三年マデ御足立タズシテカタハニマシマセシカバ磐樹船ニ載セテ海ニ放
チ奉シ云ヒ」(三)蛭子神不具ナル因ニ物ノ片チガヒ元数常ニ
異ナリ元ひぜ竹元ひぜ紙元ひぜ膳ナト云フ類アリ
元ひぜ竹元ひぜ紙元ひぜ膳ナト云フ類アリ
元ひぜ竹元ひぜ紙元ひぜ膳ナト云フ類アリ
紙ヲ数枚重ネ揃ヘテ義ヲ時一枚折ヒコミタルヲ知ラズシテ裁チモラレ
後ニ其角ヲ出デテ紙ト異ナル人 戸力紙

えびせ・かけ「表裏」（えびせさぶらう・條）（二）ヲ見ヨ

（一）絲紐ナドヲ上ニアラハシテ折チガヘテ絡ゲ縫フコト後ニ云フ闕清絵ニ同

じかルベシ新撰六帖二郡「我ガ事ノ奥ノ郡ノえびせ・かけトミモカク

ミモ引キ伝ガヘシ」三條家装束抄「文井上稜、壮年ノ人ハ云ヒ股立ニ有ニ

表裏の絲　白練絲、太オせ」（松屋会記七十四）

（三）着坐ノ式ニ云ハ後、両側ノ席ヲ千鳥襲ニたんうナルベシ

二水記、大永二年二月。著坐事「相分著之」（註、謂江比

須加ケ）已上文奥端相分著之」（松屋会記七十八）

えん「衍」衍字ノ異

えん「延」延音ノ変

えん・ぬん「延音」一音ノ延ビテ二音ト成ル

やか・やうか（八日）やや・やうやう（漸）ぬ・うつろふ（移）

むか・むさか・むこか（六日）

えんか「嚥」上候ニ呑ミクダスル

えんが「掩」掩蔽ノ義ニ木枕・錦枕・帳ナド徒ニ元来ヲ掩ト敵ノ

枕頭ノ所ヲ

えんぎ・ゑんし「縁起」縁ヲ見ヨ

えん・ぬん「捐館」死スルヲ、下世話ノ「捐館ニ入ル」（新図字義ニ人死去結平生館室ニ也）

えんぎ 演義 芝居ノ義理ヲ演ブル

えんき 演戯 芝居狂言ヲ云フ

えんぎ 演技 技ヲ行フ。

えんこわ 鉛丹 自然ノ鉛ヲ製ス シロキモノ、シロメモノ、オシロイ

雄黄化七分 月、天下麗人莫若吾妹 云、鉛丹神御 苔蘭澤無加

えんこわ 烟丹 ハナビ

えんこわ 鉛化水素

えんこわ 塩化

えんげつ 偃月 ミカリヅキ、半月。

えんげつたう 偃月刀 ナギナタ

えびさぐし 夷折櫛 えびさぐしの見コ

えびぜめ 海老責 徳川時代拷問ノ一種、罪人ニアグラヲカカセ伏セテ頭ノ足ニ着ケテ縛リ絞ル也

えびらかたな 箙刀 鎧ノ上帯ノ右手ノ有筋ノ方箙ニ近キ辺ニ指ス故名ト云 短刀ノ名、馬手刺ニ「ヒジキカト云ス

高館草紙「えびら刀着かき刀」裏漉隨筆、二「昔箙刀ト云ヒシ今ハ馬手指ト云フ歟」(松屋筆記三ノ三一)

えびす 海蛭 蛭ノ俗ヲ

えんさん 塩酸

塩酸加里

群碎録
「鉛槧、槧、板長三尺、謂ニ以鉛刻ニ於槧而書之」（昌黎集録 廿五）
王充論衡「斬木為槧」
玉篇「槧、前板牘」

えんーざん 【鉛槧】（鉛槧ハ古ノ支那ニ木ヲ削リテ紙ヨリ先ニ書ヲ記シタル事ニ用ヒタル文字ヲ記シタル事ニ用ヒタル語ト云フ）
（支那ニ未タ紙ナカリシ世、鉛ヲ以テ槧ニ刻ミテ書ヲ記シ、文字ヲ記シタル事ニ用ヒタル語ト云フ）
洛神賦「鉛華弗御」鉛槧ヲ用ヒ
和鉛書ヲ
（紙ヲ用ヒ文字書ク。文筆ノ業。）
西京雑記「揚雄懐鉛提槧従諸計吏訪殊方絶俗之語」作方言一

エンジェル（英語）天使。

えんしーかい 【無子義】カキツバタ

えんーしゅう 【沿襲】（沿習ナラハシ、シキタリ、習慣）

えんーさん 【烟散】烟ノ如ク散リ失スル「一霧消」

えんーさつ 【延責】（インキ）責命ヲ長ク延ブル

えんーたつ 【烟達】烟突ノ孔ヒケムリダシ。

えんーとう 【塚道】入口ニ同ジ、エンサシキ。

えんーだう 【羨道】（集韻「羨次表然切音延、墓道也」）
塚墓ノ入口ヨリ玄室ニ至ルマテノ道。我カ邦古墳ニアリ。

史記、衛世家「共伯入釐侯、羨次、自殺」

えんーば 【鉛丹】（鉛丹ノ誤音）

えんーてい（副）【淵底】（淵底ノ字音ニテ副詞ニ用ヒタル語）
深ク委シク、下学集ノ門「淵底、エンテイ、第三義也」
清正高麗陣覚書「清正悔悟、増田長盛ノ厨所、雑人「其段、淵底秋等存候」寛文十月、伊達兵部少輔仕置申渡「先代

之様ナ淵底ヲ一入為不留ニ云シ

えんそう 淵叢（淵ハ魚ノ集マル所、叢ハ草ノ集マル所）

物事ノ寄リ集マル所 圭経、計成、「天下通逃主」

えんせいさう 衍聖公 孔宣王ノ後サリ

えんちふ 延納 期限ヲ延ベテ上納スル（租税ナド）

えんにち あきんど 縁日商人 えんにちノ後サリ

えんぎん 延住 重任ノ後ヨリ

えんのした 縁下 床下ニ同ジ

縁下ノ舞。縁下ノ力持 骨折リテモ人ニ見知ラレズ徒ラニムダボネヲリ、

えんぢ 式鳥居 イチハツ、コヤスグサ、

（二トビノヲ（二草名）

えんげん 延言 延音ノコトバ、延語。

えんざい 延語 延言ニ同ジ

えんぐわ 縁語 エンノコトバ

えんさく 延胡索 草名 茎高サ七八寸、葉楕円形ナリ 夏花ヲ開ク色碧紫ナリ

えんきやう 炎経（火滅二字ノ省合、法華経方便品「入無餘涅槃」）

薪盡火滅」ト、火滅二字ノ首合、小乗涅槃「灰身滅智」）

涅槃経ノ異名、雲異記上第二十「恵勝法師者炎経

雖能誦而不能学事」

えんげん 淵源 ミナモト。物事ノ始ツキ起ルトコロ

えんーぐわ 偃臥 アフムケニ臥スル

えんーざ 緣坐 連累 キヤウルイ 罪セラルヽ

えん・さき 緣先 縁側ノ端

えん 炎 病名 炎症ヲ見ル

えんーしゃう 炎症 火炎 熱ル病ノ火ノ炎ヲ見ルニ似テ赤ヲ元トシテ他ノ病ニ後レテ

ヒフヤリ 病ノ温熱 潮紅 腫脹 疼痛 及セノ 稍ヲ後レテ 肺炎 肋膜

脳膜ノ結膜ノ 腎臓ノ 腎臓ノ 腹膜ノ

えんーざ 緣坐 親族ノ縁ニ因リテ 連累 ヤキヅ トナラ 添セラル

北史齊後主紀 書經 疏 朝周以後其流或相緣坐 平家三大

臣被流 父兄左大臣 関ノ 緣座ニ 後ヲ 先帝 罪人 流罪セラレ

えんしよ、あはせ「艷主」合「艷想」歌ノ歌合、

堀河院艷主合「内ニテ殿上ノ人々歌ヨムト聞エル」宮仕ノ人ノ許ニけさうしたる詠ミテカレニ仰ニテ（彩）今鏡ニ、主持「女、恨ミタル歌ヨミテ男ガリ遣リナドシタル

堀リ院艷主合トテ末世マデトヾマリテ好キ歌ハ多ク撰集ナドニ入ヒルナルベシ」

えんせいしゝん「厭世観」「厭世ノ俳ノ」

えんせき「燕石」（山海経ニ燕山ニ出ル石ニ玉ニ似テ非ナリ）

價ナキモノヲ寶トシテ人ニ誇ルヲ、小オノ慢心

掩ヒ而笑曰此特燕石耳其先慶氏之宋其先慶氏之宋藏之以為寶夫客見其

註新釈　韓退之文「裏燕石屠之国」云ヘ「祇取誹耳」（玄圃ハ海経ニ出ル）

えんず　他左変「演」（二）コトバニテ、演説ス「一場ノ遺話ヲ」

（三）スルオモテ、興行ス「喜劇ヲ」

えんそう「演奏」音楽ヲカナデル、

えんだい「椽基」「椽側」代用ス基ノ意カ」腰掛基ニ同ジ

えんだいのふで「椽大筆」（椽ハ如キ大キサノ意ヨリ）集韻「椽音傳」説文「椽ハ榱ナリ」トアレバ、そだいたゞキナレバ姑ク俗呼ニ従フ

立脚ス文堂ゝん文章大手筆、晉書王勃傳「珣夢人以大筆如椽授之」話之曰此當有大手筆事果武帝崩哀冊諡議皆珣所草」

~~五人男世~~

えんそく 【便宜】 ヤスム、茶屋、休息。

えんたう 【鉛糖】

えんぜつ 【演舌】 口上ヲ用ヰテ演ズル、口演、(主ニ学ブ) 用ヰル者

ヲ取リタルヲ演舌ト云フ

えんだん 【演壇】 演説者ノタメニ設ケテアル高壇

えんちょく 【鉛直】 垂直ニ

えんすゐ 【鉛垂】 同上

えんづか 【縁束】 縁ノ下ノ束柱

えんてき 【檐滴】 アマダレ。アマダル。

えんぶくぼう 【烏帽子】 僧又ハ貴者ノ被ル帽子、山高ノ

ミテ左右ノ垂、長クシテ背後ニ及ブ、烏帽子ノ如シ 綾織ニテ作ル

えんぶ 【演武】 武芸ヲ行フ「一場」

えんぶ 【便武】 武器ヲ便セテ用ヰザルヲ、敢乱ヲ止ムルヲ、書経武成、便

えんのしまばら 【縁板張】 木内、裏中、武士ノ家ノ東ニアル地ノ名、

三代実録五十、仁和三年二月廿七日「今夜亥時、云、武士居東縁板張西

有美婦人三人云、(妖怪)」 ~~芽枝、晩待星~~ えんの松原ニ「アルトキ

えんざ 【寃座】 えんのざ、侯ヲ

エメラルト 【英語 emerald green】

えゝま（副）能（俳）ヲ見ヨ「えゝま言安」えゝま言えズ」

えゝまじ　「元文集」（二）海老（エビ）ノ女房汨（三）鱠（ナマス）ノ女房汨、

えゝまんーがた　「衣紋方」大名ノ家ノ職、武家故実ノ衣文（エモン）ノ法式ヲ学ビテ其事ヲ

えゝまんーけ　「衣紋附」えゝまんがたヲ見ヨ　衣紋附（エモンヅケ）トモ云フ

えゝまんーけ　「衣紋家」えゝまんノ俳ヲ

えゝまんーかみ　「衣紋髪」映（ハエ）テ撫（モヤ）ヨツクロフ風呂鏡、洗髪ノカゞミ。

犬子集（寛永）「天人ノ衣紋鏡ガ空ノ月」

えゝまんーかけ　「衣紋懸」（三）衣桁（イカウ）、ミヅカケ。

えゝまんだけ　「衣紋竹」（三）短キ竿ノ中央ニ紐ヲツケ両端ヲ衣服ノ両袖ノ内ニ挿ミ

美人テ壁柱ニ懸ケタル、竹製ナル衣紋ケトモ云フ

えゝまんーだけ　「衣紋竹」えゝまんがたヲ見ヨ

エンマーさぼろぎ　「閻魔蝋燭」六月十六日閻魔ヨリノ供盛ニ出ツル故ノ名

カ　さぼろぎニ似テ里俗ニテ駄大ナモノ

エンマーがま　「閻魔蒲」（蟇）

エンマーまゆ　「閻魔眉」えんまノ俳ヲ

えんーや　「艶治」（正額）「出装飾也」遊治トモ云フ語モアリ

ヒトガタ　ヤマメカシラカザルヲ

えんざら盛（軽ナル料理ヲ盛ル器）（エイヤ）ヤツとモ申（エイ）とノ起

カヲル、叶ヒたんを、エイト

えんざらゲット（副）（えんざらトヤツトノ合）えんざらノ俗音ヲ見ヨ

エイヤラヤット、エイヤット。（ヤット）カラウヒテ、ヤシナフ、

蟬　陰暦

えん、よう 艶容 アテヤカナルカタチ、ツヤメキたるスガタ。

えん、らん 烟嵐 〔集韻「嵐、山氣也」〕

霧、霧、朗詠集。「重巒疊嶂烟嵐斷霧、殷寺僧歸」

えん、ばく 燕麥 ちやひきぐさノ條ヲ

エンジン 〔英語〕

發動機 プロペラ 自働車

えん、ぶん 掩襲 サンフタギ。

えん、み 塩味 〔塩梅ヨリ移レル語〕事ノ甚ミヲ斟ミテ加減スル、料理ノ味加減

伊達家治家記錄 天平九年ノ項「不便ノ思召サレ詳ラノ佛像ヲ

かへられ所云ヘ 能ク塩味有テ相ヲ尋可遣ヲ」

異ニシテ延年ノ意ニ

えんねんのまい 〔延年舞〕〔遐齡延年ノ義ニ據ル名ト云フ〕

僧侶ノ舞 平安朝ノ末頃ニ行ハレ 叡山ノ延暦寺、奈良ノ興福寺ニテ大會ヲ行フ時必ズ

奏セリ其外神事ニモ酒宴ノ興ニモ舞ヘリ 場ノ方三十間許、二人ノ小法師、裏

頭、赤袍、白大口、白袈裟ニテ舞フ 數僧、謠ノ聲、笛、銅鼓ヲ敲キ、床拂、

扇拍子、鼓ナド種々目アリ 興福寺延年舞ノ歌「梅ガ枝ニヲ囀ル鶯ヲ

留ムルハイカガセム友ニ誘ハ皆」ナドアリ 比叡山ニ乱舞ノ法僧トテ種々ノ藝ヲ尤ト

因光大師傳九「文治四年九月後白河法皇、如法經奉納ノ為ニ首楞嚴

院ニ於テ年アリ云ヘ、衆徒庭上ニ群參シテ延年種々ノ藝ヲ盡シタリトス」

吾妻鏡十九、承元五年正月三日「今日及御前盃酒有延年等」

えんのつる 〔縁綱〕 ぜんのつるノ條ヲ見ヨ

えんのいと「縁絲」ぜんのつな、縁

えんびき「縁引」縁ノ引摸。父リノ縁ニ因リテ顯貴スルヿ。手引。

いろーえん。ひつ「色鉛筆」えんぴつ、筆

えんぶ「厭舞」「龍金」「厭、益涉切「厭食入聲」（正韻）「厭、於豔切、音厭」トアレバ厭ノ去聲ハえんヨリ文選。「西京賦「厭火行」厭、於冉反トアリ。說文「厭、笵也」徐曰笵鎭也、厭也一曰伏也」邪鬼ヲ厭ス鎭ムル義。惡魔祓ノ意。「桙ヲ振ル」因ル振桙ト記シテ「えんぶ」ト讀ムヨリ

（又振桙舞トモ記シ約メテ又ハ振桙ヨリ桙ヲ振リテ三竹鼎ニ魚ヲ雜ヘ聖朝安穩、四海世理、國家太平雅音成就ナド云ヘ鎭詞アリ（教訓抄一）

△佛教徒ハ自本國ヲモ閻浮提ノ内ナリト見ルガ如シ

西宮記、七月、相撲召仰「左右垣代桙各廻ニ相撲畢立、左乱聲厭舞」

云ニ右如此」摩伎、「桙振ルヲ云ヘ舞ト云ハ云ニ厭舞ト書ク也、厭ノ字ハ邪鬼ヲ降伏シ災殃ヲ消スガ為ニ祝ヒテ最初ニ是ヲナス、云ヘ乱聲トテ三度桙ヲ振ル」樂家録二十八「振桙、更年不

エンブダイ「閻浮提」「贊語」Jambu-dvipa 元来須弥山洲中南方（日本外来語辞典）アル大陸ヲ指ス、印度名ナリト云フ」佛經ニ此世界ノ称。南瞻部洲。△

法華經。品「閻浮提内廣令流布使不斷絶」（第十六、閻浮洲）又閻浮洲

ヘテ普ク「閻浮提、善惡ノ業ヲ造リタマフ」

盛衰記二十四、第七節、南都東大寺「日本第一ノ伽藍也閻浮無

好ノ大壹ナレバ云ヘ」閻浮の身トハ此世ニ生ヲ受シ凡身ノ義ニテ凡夫ノ意ヲ

古今十九、長歌「降る雪の消なば消ぬべ思ひもえぶの身なれば、ナホヤマズ
思ひ深ミ云ミ」紐子戴セ、長歌「えぶの身ながらコノマニ悟りの位動キ
ナク」

檀（閻浮提金）

エンブダさん（閻浮提金）（梵語ニ Jambu-nada ト云フ Jambu-nadi
ト云フ河ヨリ出ヅル金ノ義ニテ前條ノ語ト語源同ジケレド、語原異リ（日本外
来語辞典）天竺ニテ精良ナル金ノ名、約メテえぶだごん

平家ニ「月蓋長者ガチセイニヨツテ龍宮城ヨリえんぶだごんヲ
得タ」謡曲弱法師「皆寺ノ伽藍ノ御作リノ品々ニ塔婆ノ金物
ニルマデ閻浮提金ナルトカヤ」

壇主巻抄六第二篇「閻浮檀金モ只金也」

10 根岸 森むらや製

云ミ錯現
ヒタヤルニ
弘陀ノ三尊

えんぎだろ（縁起棚）（陰形ノ祝ト云フ）遊女屋ニテ棚ヲ設ケテ男根ノ形ヲ祭ルモノ、後ニ吉兆ノ
名ヲ取リテ藝妓、幕ヲ藝人、料理屋、芝居ニテモ神仏混淆ノ神棚ヲ設ケテ祭ル

種し、客ノ来ニムヲ祈ル

えぶ 鬼（厭舞ノ約、閻浮ヲモえぶト云フガゴシ）厭舞ノ伴ヲ

えぶ（閻浮ノ約、前條ヲ見ヨ）閻浮ノ伴ヲ

えんぎ（縁起）和歌ノ修辞法ニ縁アル語ヲ巧ミニ言ヒ寄スルモノ

えんの詞 悦目抄「えんの詞ト云フハ秀句（ハヒカケ）ニアラデ、タヾ事ノ便アルヲ云フナリ
タトヘバ沖津浪云々ハ、まされナドニヲヤハ、事ナリ」金葉、九、雑上、隠
シテアリケルニヨリウミヲ梅ヲオコセタリケレバ「葉ガクレニ
ハヒト見エシ程モナクさハうみ梅ニナリニケルカナ」（悪阻ル、熟ル、孕ム、生

み、熟み）新古今（六冬）の「夢カヨフ路サヘ絶エヌ吳竹ノ、ふしみノ里ノ雪ノ下折」（夢、卧見、伏見）平家、十、横笛「横笛ト云フ女ノ出家シタルニ「ゆるマデハ恨ミシカドモ梓弓、真道ニいるゾ立レキ」（剃ス、又ハ入ル、射ル）具著、縁ノ詞たべし

えんだ、縁話一名ノ七ばコ見ヨ

えんーぼう「延寛」（集韻、「寛、莫侯切、音茂」）

~~夜輪、赤廣嘉、東西廣、南北廣~~

長サ。廣サ。「土地ノ一萬餘里」

端月（端月ヨリノ遠サ）

えんーば「簷」医軒端ノ屋鈴。

エンマヲ「閻魔羅」閻魔ノ條ヨー

えんえん、ちがレ「衣伏流」蹴鞠ノ曲。鞠ニ云フ後、立チナガラ少シ俯シテ鞠ヲ一方ノ臂ニ載セ轉シテ項ノ襟ヲ海モ一方ノ臂ノ上ニ到ニ云ル

後撰夷曲集（寛文）「老イヌレバえんぐがしモヤリトイヘバイヨ〳〵蹴マクホシキ鞠カナ」

雅俗遊狂集（享保）「鞠皆き都ノ春ノ錦、柳ノちがレ花ノ雲ノ皮」自註「家（蹴鞠ノ家）ニ身ニ添フ鞠ト云フヲ俗ニちがレト云フ」

えーぢみ「瘧」（疫病ニ同根ノ字ニテ陽日又ハ陰日ニ病ヲ発ス）

ヨテハヤミ、サムヤミ、今、おこりト云フ其條ヲ見ヨ 字鏡十「痎、老虐也、衣也三、左年也弥」 和名抄、二十「疫鬼、瘧鬼、衣也美」

後名抄、三十二「瘧、寒熱並作二日一發之病也、衣夜美、和良波夜美」

同、二十一「瘧鬼、瘧鬼、衣也美乃加美」

えやみのかみ 疫神 疫神人ヨレテ瘧ヲ病マシムル神トスルモノ、オコリノカミ、
倭名抄二十一「瘧鬼、衣也美乃加美、或、於爾」
えり 「魚」（入ノ轉ナルベキカ 字ハ魚入ノ合字）
漁具ノ名 羅 夫木抄ニ籠イリ
水中ニ竹簀ヲ渦ノ如ク立テマハシ魚入レバ中央ニ進マネバナラヌヤウニ作リシモノ、ソレヲ手網ニテ掬ヒ捕ルナリ 近江湖水ニテ多ク行フ 籠
晉丹集「佐呂津（近江）ニ簀ガキ晒ヒ干ヒリ春毎ニ充リサズ民ガニワザナルラム」新撰六帖、三「鮒イボル瀧江ノえりノ淺カラズ人ノヒロザノサケナノ世ヤ」下学集 增補、下「魚、エリ」和漢三才圖會廿三、漁猟具「籠、東海中取魚竹也」 易林節用（寛永）「魚」

えり あか 襟垢 衣ノ襟ニツキタル垢。
えりくび 襟ボンノクボノ毛ノ生エサガリ。
えりあて 襟當 女見ノ服、襟ノ後ノ背ノ衣ノ隱ルヽホドニ當テオク布
帛 髮ノ垢ノツクヲ防ぐ。
えりうら 襟裏 うらえりニ同じ
えりかた 襟肩 衣服ノ背ノ襟ニ接スル所ヲ左右ノ肩ニ及ブ所
えりした 襟下 襟ヨリ後ノ端ニ至ル丈。「一襟尺ナ」
えりしん 襟芯 襟ノ芯トシテ入ルル布
エルロオ・ペリル 黄福 ヽヽヽ

根岸 孟むらや製